

2015年12月31日

日本産科婦人科学会
第8回 産婦人科動向意識調査
2015年11月調査
最終報告

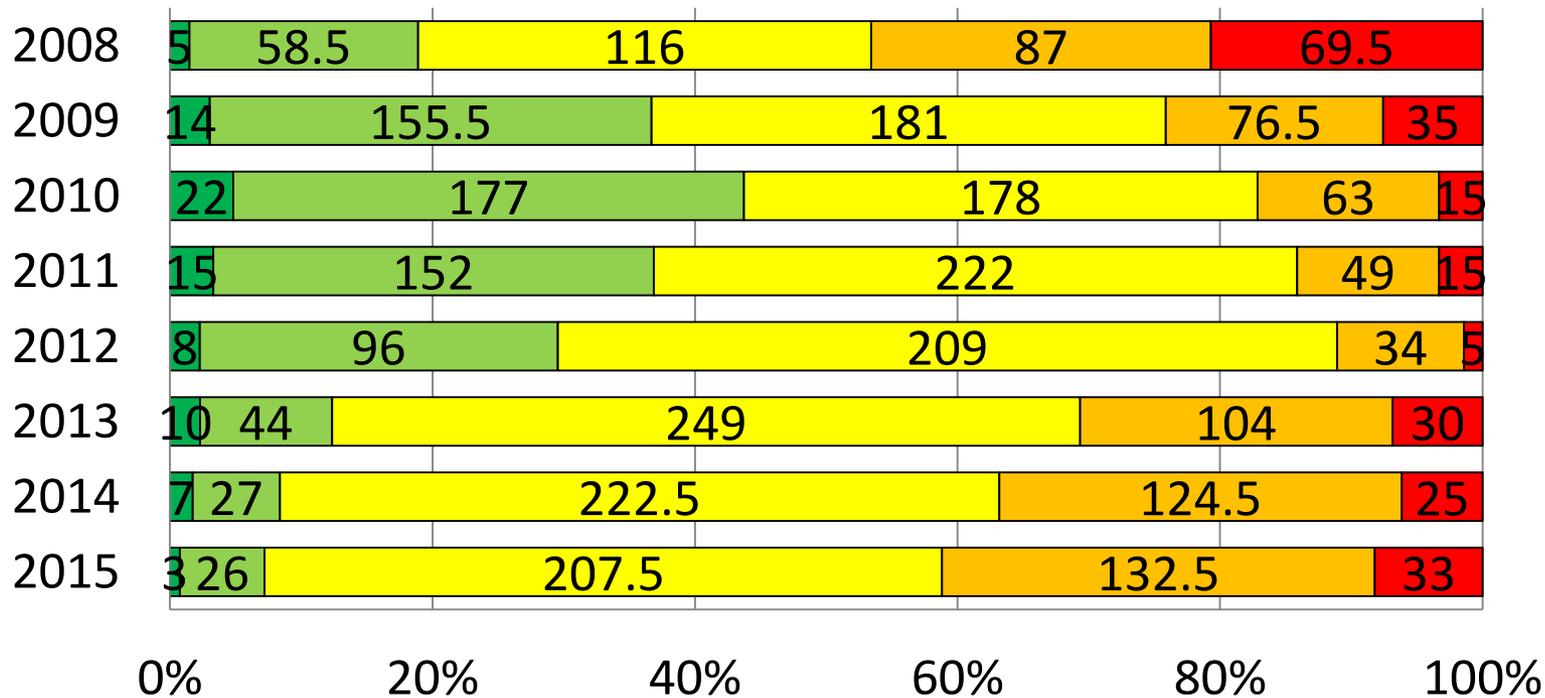
日本産科婦人科学会
医療改革委員会

日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査 調査結果

	調査対象施設数 (専攻医指導施設)	回答数	回答率
2008年	756	332	44%
2009年	742	462	62%
2010年	744	458	62%
2011年	726	456	62%
2012年	723	349	48%
2013年	666	442	66%
2014年	667	406	61%
2015年	636	403	63%

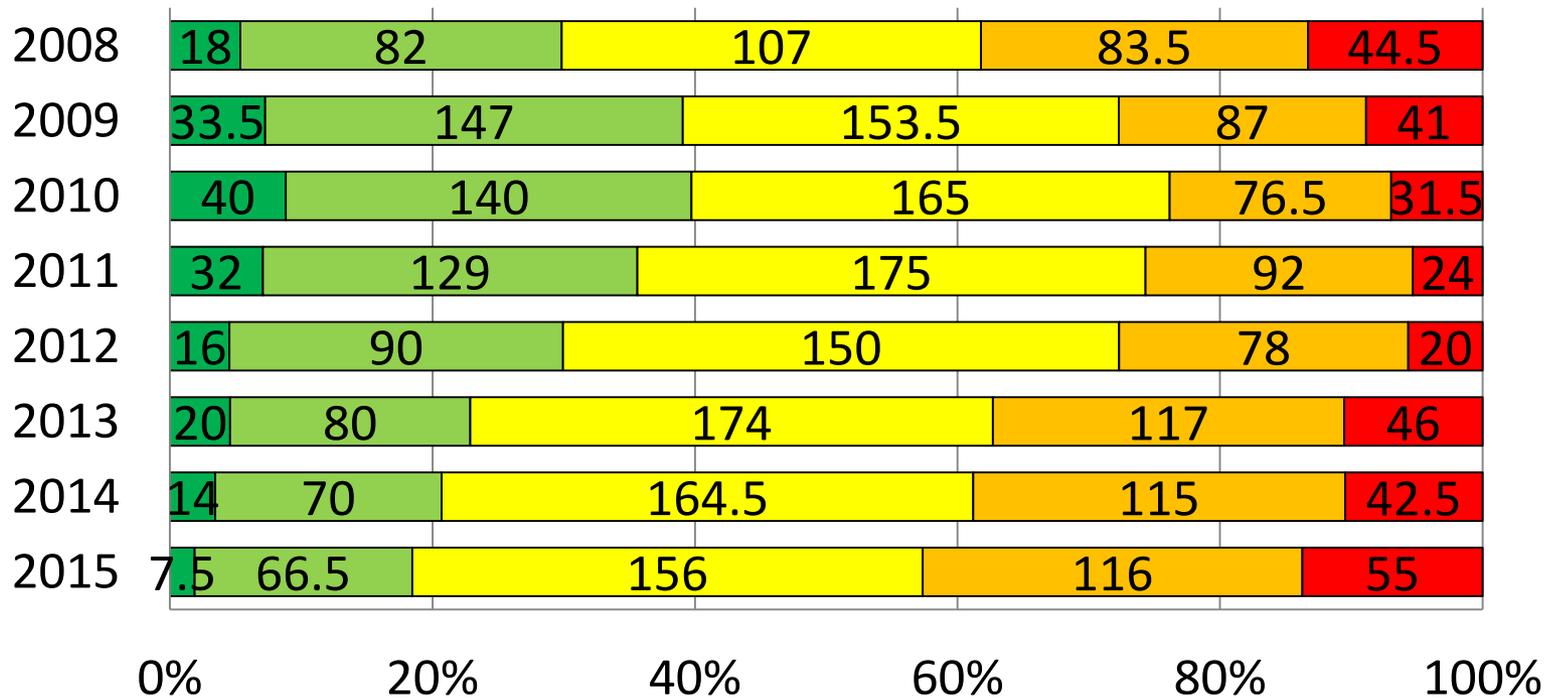
日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査 「1年前と比較して、全体としての産婦人科の状況」

- 良くなっている
- 少し良くなっている
- 変わらない
- 少し悪くなっている
- 悪くなっている



日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査 「1年前と比較して、自施設産婦人科の状況」

- 良くなっている
- 少し良くなっている
- 変わらない
- 少し悪くなっている
- 悪くなっている

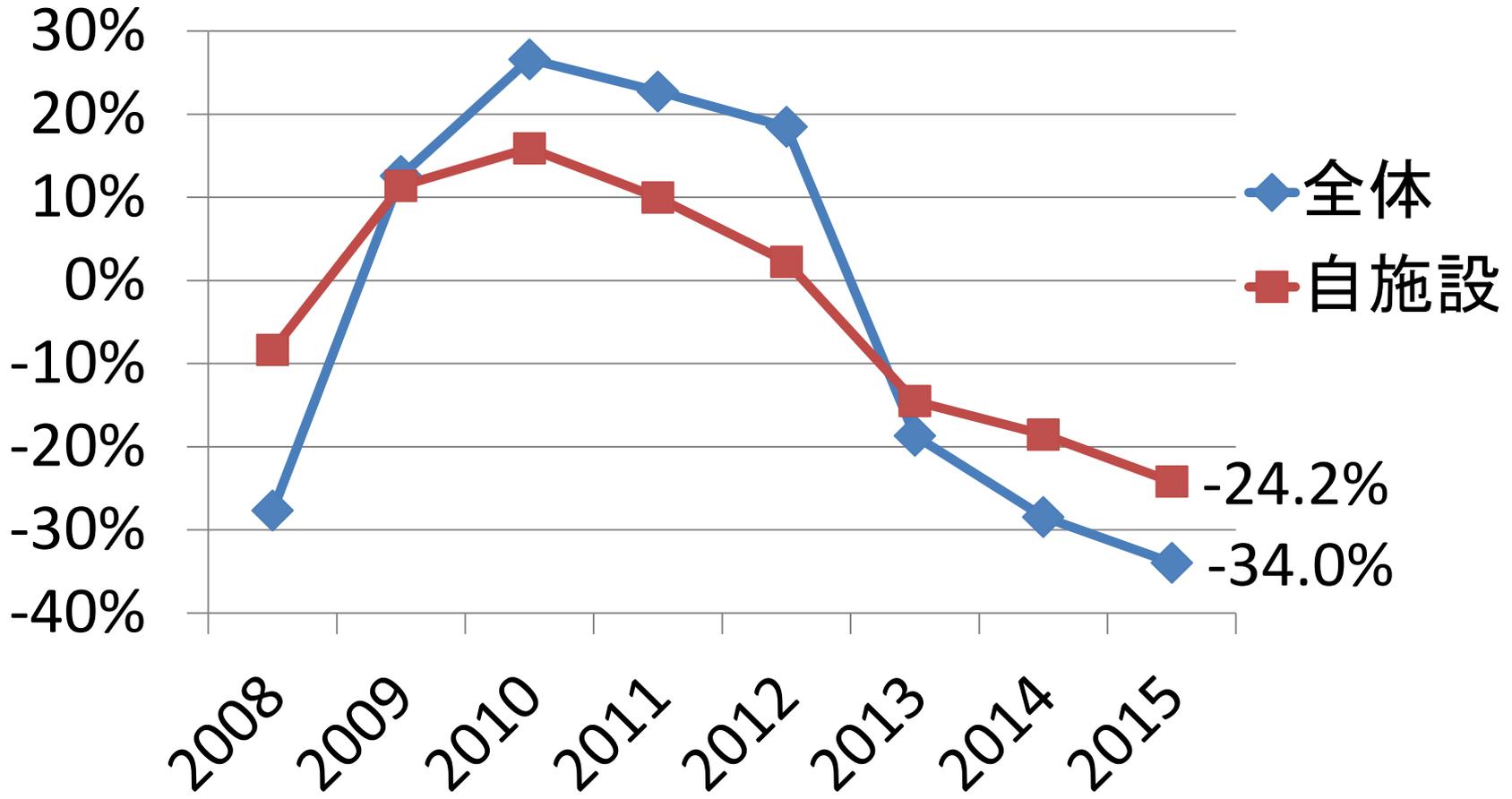


動向指数の計算

- 全国および各地域における「全体」と「自施設」に関する回答について以下の方法で**動向指数**を計算した。

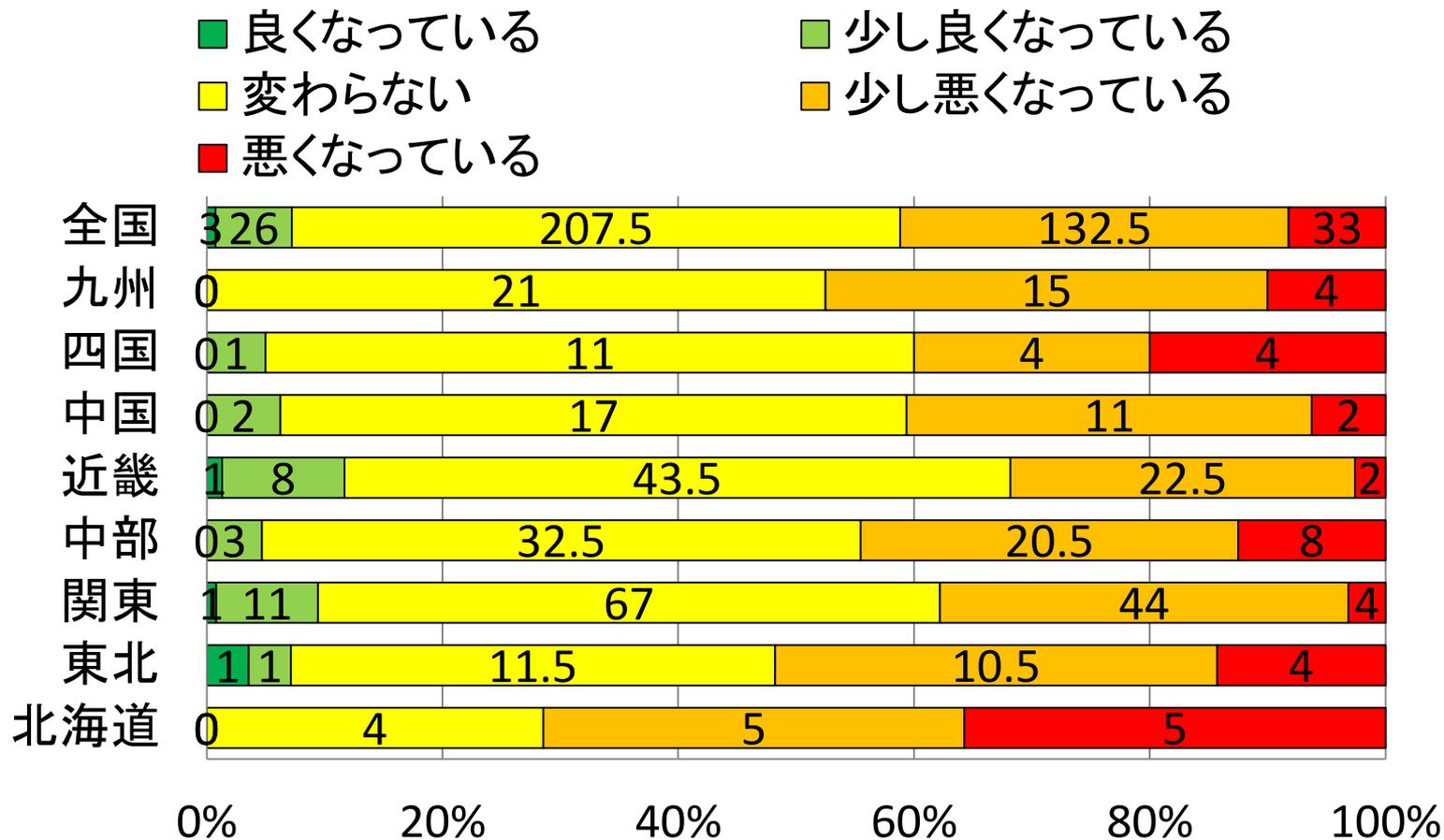
【(良くなっている+少し良くなっている)－(悪くなっている+少し悪くなっている)】／全体の回答数

日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査
「産婦人科の状況に関する意識」
動向指数の変化



「産婦人科の状況に関する意識」

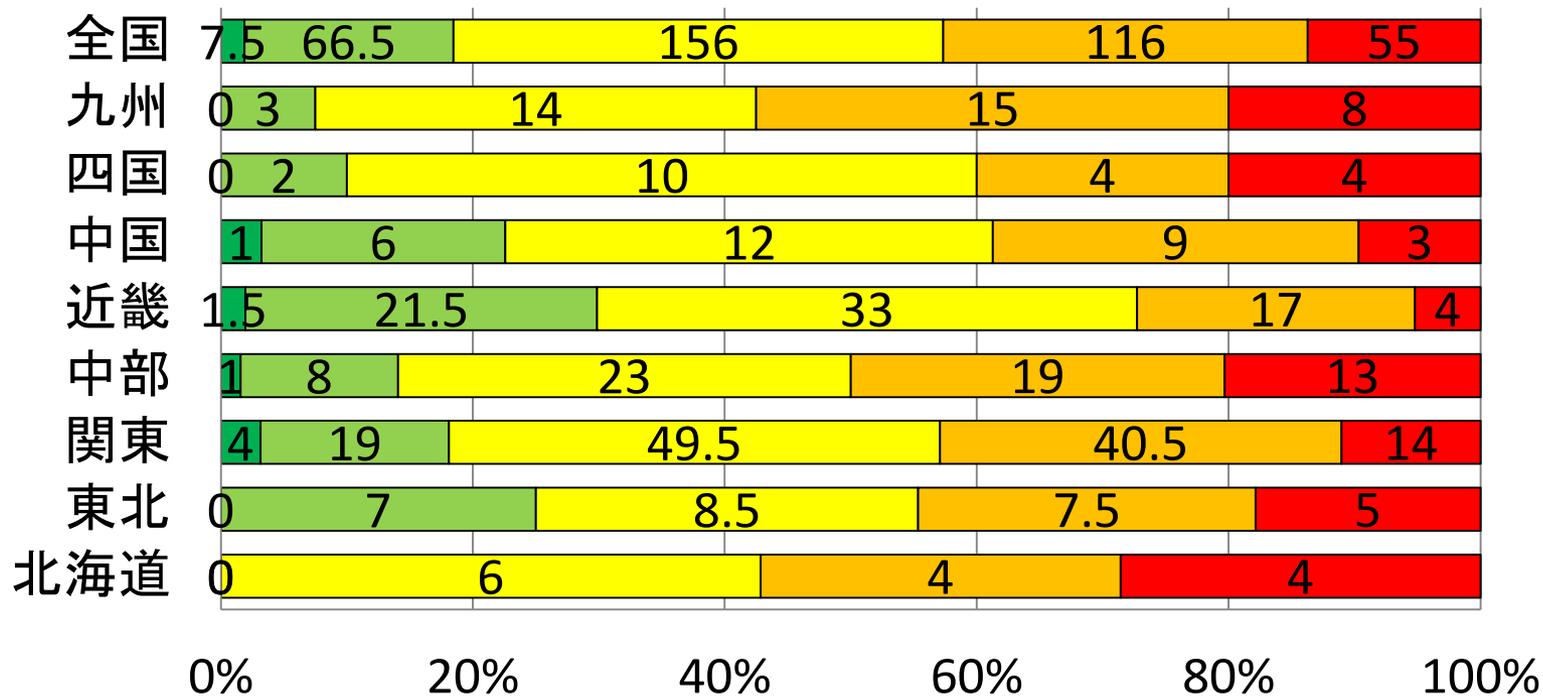
動向指数 地域別 全体としての産婦人科の動向



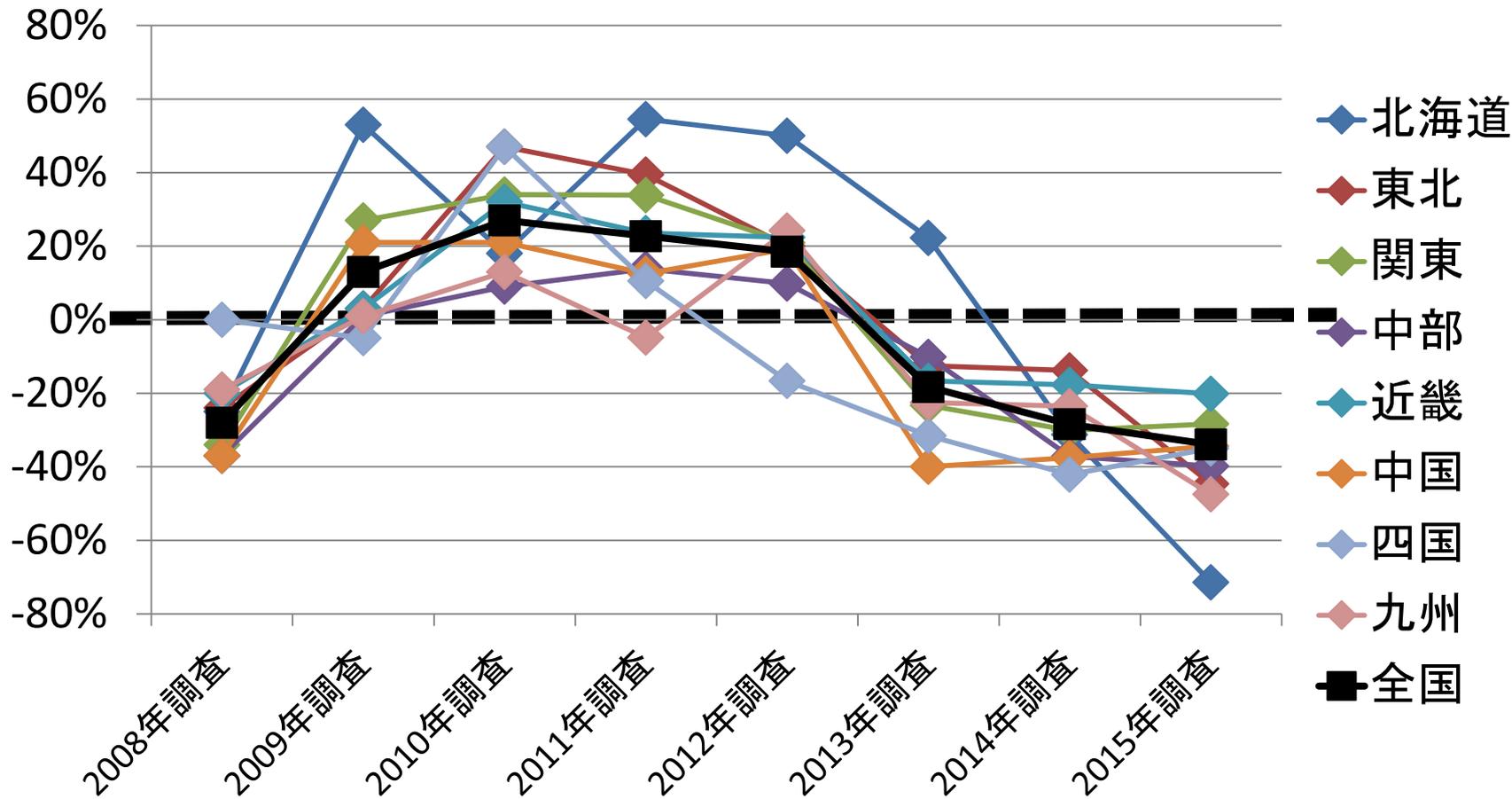
「産婦人科の状況に関する意識」

動向指数 地域別 自施設の産婦人科の動向

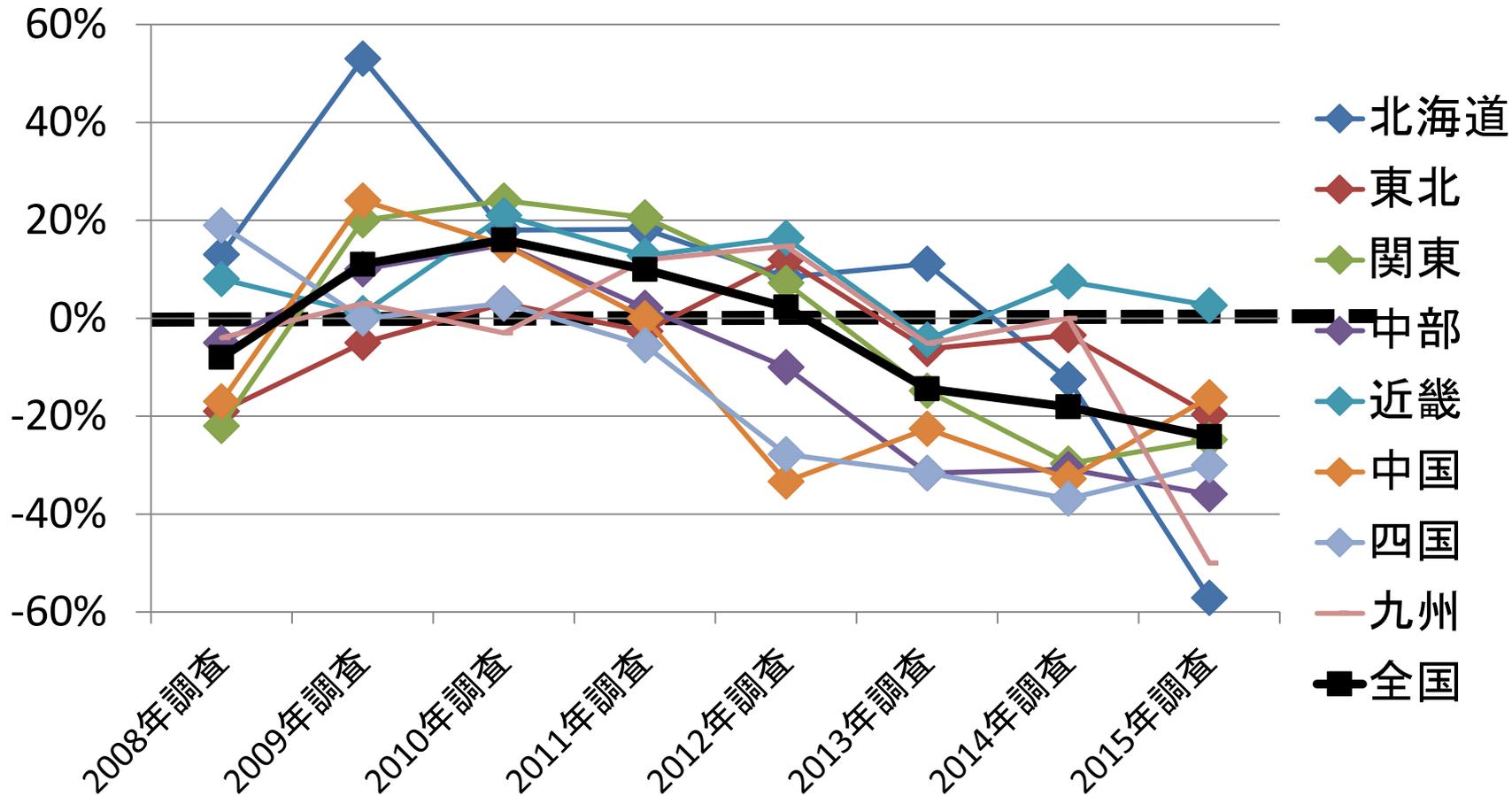
- 良くなっている
- 少し良くなっている
- 変わらない
- 少し悪くなっている
- 悪くなっている



日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査
「産婦人科の状況に関する意識」
動向指数の変化 地域別 全体としての産婦人科の動向



日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査
 「産婦人科の状況に関する意識」
 動向指数の変化 地域別 自施設の産婦人科の動向



2015年11月 日本産科婦人科学会
 第8回 産婦人科動向 意識調査
 全体としての産婦人科の状況
 回答の理由(複数回答)

悪くなっていると感じる理由

- | | |
|--------------------|----|
| 1. 産婦人科医師数減 | 47 |
| 2. 産婦人科新規専攻医減 | 38 |
| 3. 医学生・研修医における志望者減 | 14 |
| 4. 分娩施設減 | 9 |
| 女性医師の出産育児等への対応困難 | 9 |
| 6. 女性医師の増加・男性医師の減少 | 7 |
| 高齢化 | 7 |
| 地域格差拡大 | 7 |
| 9. 業務の増加 | 5 |
| 新専門医制度の影響懸念 | 5 |

良くなっていると感じる理由

- | | |
|----------------|---|
| 1. 人員増 | 9 |
| 2. 学会の取り組みを評価 | 3 |
| 社会の評価・行政の対応 | 3 |
| 4. 地域医療システムの改善 | 2 |
| 5. 診療ガイドラインを評価 | 2 |

2014年11月 日本産科婦人科学会
 第8回 産婦人科動向 意識調査
 自施設産婦人科の状況
 回答の理由(複数回答)

悪くなっていると感じる理由

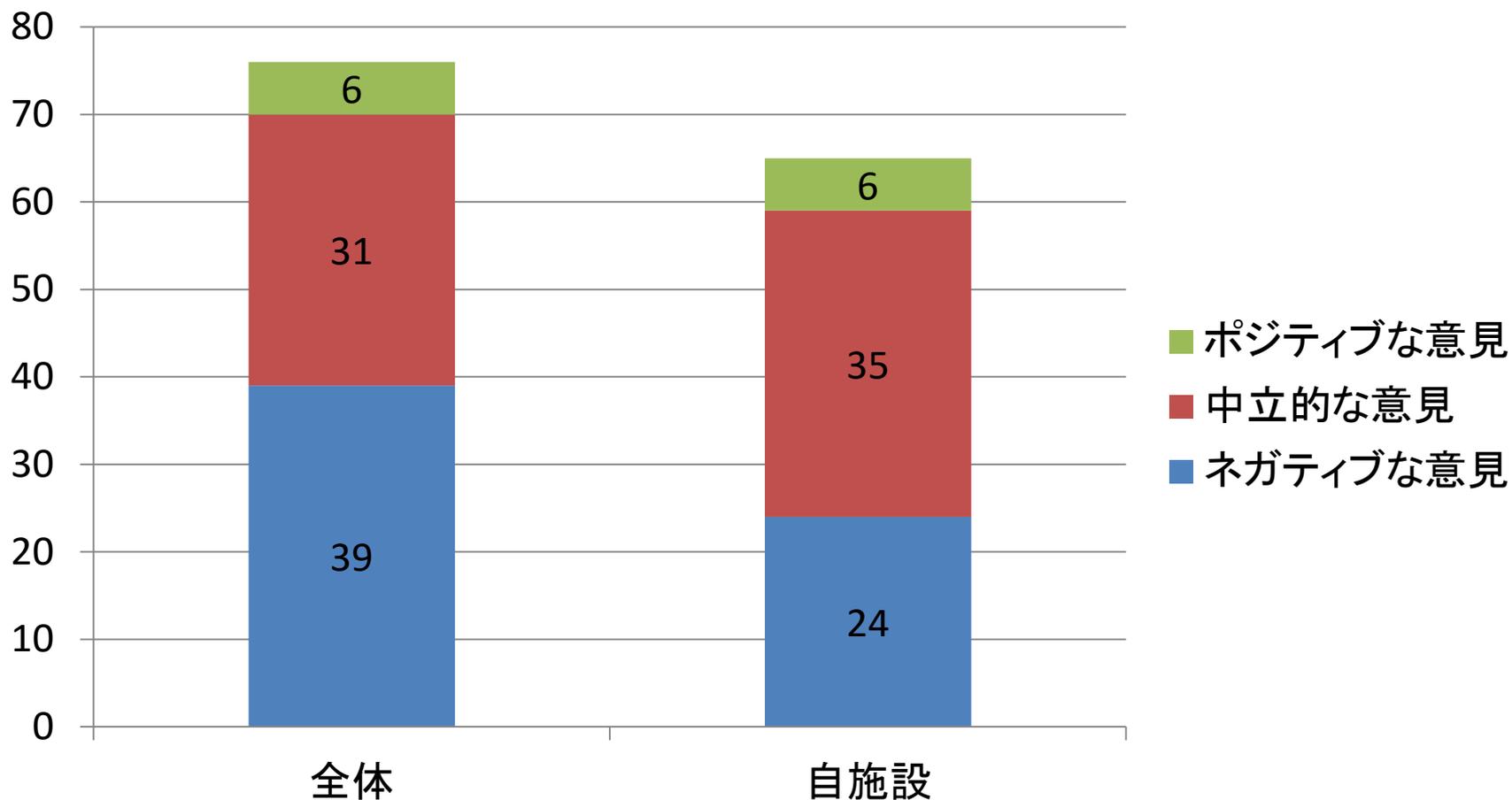
- | | | |
|----|----------------------|----|
| 1. | 産婦人科医減少・未充足 | 77 |
| 2. | 女性医師(産休・育休を含む)への対応困難 | 38 |
| 3. | 業務負担増 | 27 |
| 4. | 医師の高齢化 | 9 |
| 5. | 産婦人科新規専攻医の減少 | 7 |
| | 患者数・分娩数減 | 7 |
| 6. | 中堅層の減少 | 6 |
| 7. | 周辺施設、診療所閉院 | 3 |
| | 研修医の中での産婦人科志望者の減少 | 3 |
| | 新専門医制度への懸念 | 3 |

良くなっていると感じる理由

- | | | |
|----|-------------|----|
| 1. | 産婦人科医師増員・充足 | 49 |
| 2. | 勤務軽減 | 5 |
| 3. | 症例数増 | 5 |
| 4. | 院内他部門の充実 | 4 |
| 5. | 女性医師の活躍 | 4 |
| 6. | 研修希望者増 | 4 |

第8回調査

「変わらない」と回答した理由



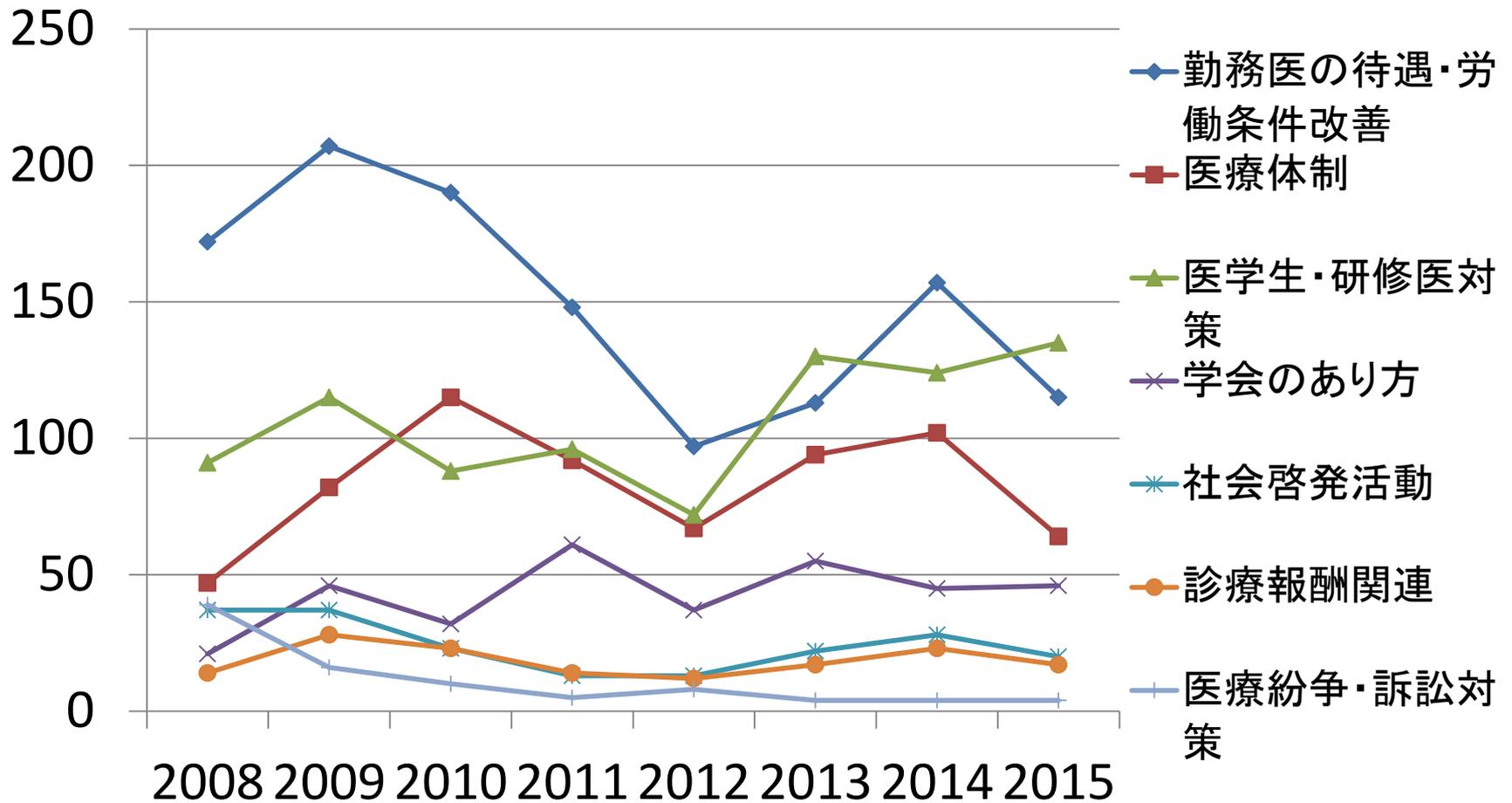
日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査

第8回 産婦人科動向 意識調査

学会として優先的に取り組むべき課題 上位の項目

1	産婦人科医をふやす努力	87
2	女性医師の勤務環境整備	35
2	地域格差・偏在対策	35
4	新専門医制度対策	32
5	勤務医の待遇改善	30
6	医学生・研修医へのアピール	21
7	勤務医の労働条件改善	18
8	分娩施設・病院の集約化・定員増	17
9	診療報酬改革・分娩費用引き上げ	15
10	女性医師キャリアアッププログラム等復帰促進策	14
11	初期研修における産婦人科の必修科復帰	13

学会として優先的に取り組むべき課題



日本産科婦人科学会

第8回 産婦人科動向意識調査

調査結果のまとめと考察(1)

- 第一線の産婦人科医の産婦人科の現状についての認識は、2010年をピークとして、5年連続で悪化し、調査を開始した2008年以来、最悪の状態にある。現場の士気はきわめて低下している。特に北海道と九州で悪化が著しい。
- その理由としては、産婦人科医の減少、産婦人科新規専攻医の減少が最大の理由となっている。この調査は研修指導施設を対象としていることから、現場の産婦人科専攻医の配置状況を敏感に反映する傾向があり、2010年度以降、新規専攻者が減少を続け、その歯止めがかかっていない現状を反映していると考えられる。
- 「悪化の理由」として、特徴的だったのは、「産休・育休への対応困難」「高齢化」と「新専門医制度への懸念」という回答の増加であった。
- 若手の多くが女性となり、女性医師が継続的就労可能な勤務環境整備は必要不可欠となっている。出産・育児のために一時的に現場を離れる医師、復帰しても勤務緩和が必要な医師の割合が確実に増加しつつあり、現場では男性医師、子どものいない女性医師への勤務負担が増えている。
- 女性が多く占める世代が中堅層を形成するようになり、今後、特に地方の基幹病院で、部長クラスが定年になった後、うまく世代交代ができるか、診療体制が維持できるかどうか現実の問題となってきたと考えられる。今後この問題はさらに深刻化すると考えられる。

日本産科婦人科学会

第8回 産婦人科動向意識調査

調査結果のまとめと考察(2)

- 新専門医制度は、平成27年度によようやくその概要が明らかになり、基幹施設、連携施設の要件が、地方病院にとって人材確保上不利になる可能性が懸念されている。平成29年度の新規専攻医数とその分布によっては、きわめて厳しいものとなる可能性がある。
- 本調査は調査対象が現行の産婦人科専門医制度下での研修指導施設であり、そのうちで新専門医制度で基幹施設に移行するのは5分の1程度であり、今後の制度の運用に懸念が生じていることはある程度やむを得ない部分もあるが、現場の声を反映した制度作りが強くもとめられていると考えられる。
- 具体的な優先課題としては、これまでの調査同様、産婦人科医をふやす努力、女性医師の勤務環境整備、地域格差・偏在対策、が上位を占めたが、新専門医制度における地方への影響への対策をあげる回答が、勤務医の待遇改善、勤務医の労働条件改善、医学生・研修医へのアピールを上回ったのが大きな特徴と考えられる。
- 喫緊の課題として、各病院では、継続的就労のための勤務緩和を実施しつつ、当直のできる医師を確保するために積極的な施策を進める必要がある。当直料、分娩手当の引き上げ、専門医研修における夜間・時間外勤務の評価、24時間保育体制の導入等の推進が必要と考えられる。